

＜対策のポイント＞

国際的に見て遜色のない科学的・効率的な水産資源の評価・管理方法を実現するため、資源評価情報システムの充実や水中グライダー等の観測機器を用いた調査を実施します。

＜政策目標＞

水産資源調査・評価の強化による水産資源の維持・回復

＜事業の内容＞

1. 資源評価情報システムへの国際水産資源データの移行

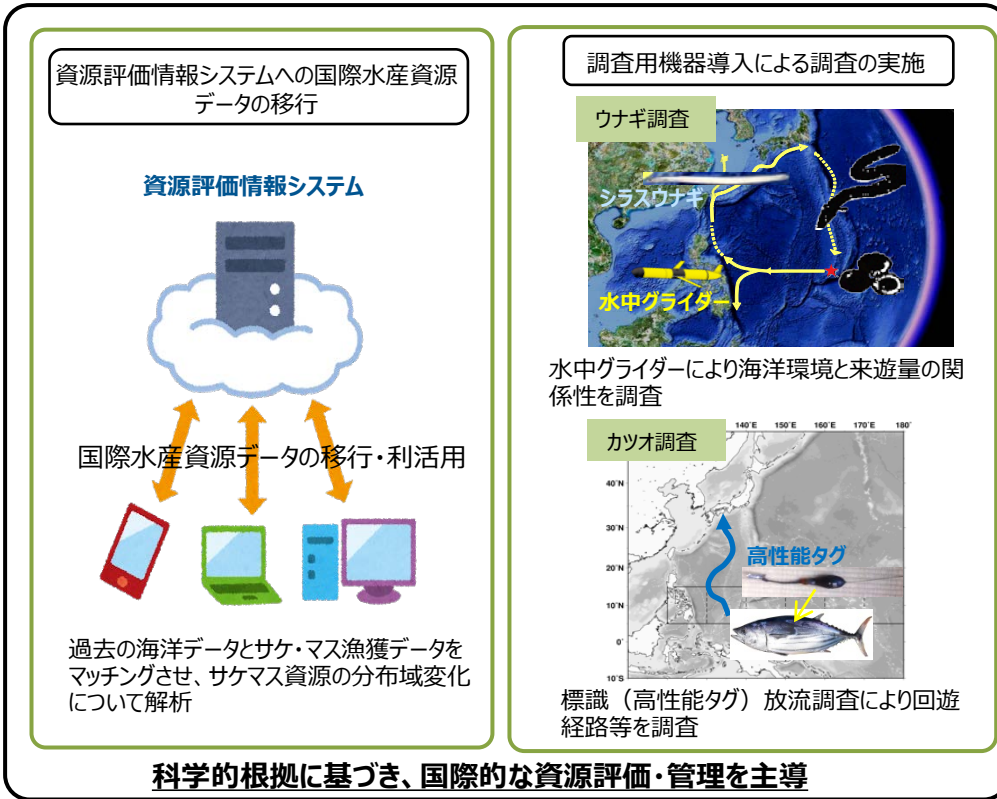
- 近年、分布域変化が指摘されているサケ・マス（国際水産資源）について、今後の国際交渉において漁業実態に応じた漁獲割当量等の主張を行うため、**国際水産資源データを資源評価情報システム*へ移行**し、我が国周辺水産資源データとの連携強化を図るとともに、データ流出等のセキュリティ上のリスク低減を図ります。

* 資源評価情報システム：調査船調査や市場調査で得られる生物情報・海況情報等が格納されているデータベース。

2. 調査用機器導入による調査の実施

- 本年漁期において不漁であったシラスウナギ及び分布域変化の原因解明が課題となっているスルメイカについて、海洋環境と来遊量や分布の関係性について科学的知見を蓄積するため、**水中グライダーを導入して調査を行います。**
- また、回遊経路や漁場形成の把握が国際交渉上の課題となっているカツオやサバについて、科学的根拠に基づく議論を行うため、**標識（高性能タグ）放流調査を行います。**

＜事業イメージ＞



＜事業の流れ＞

